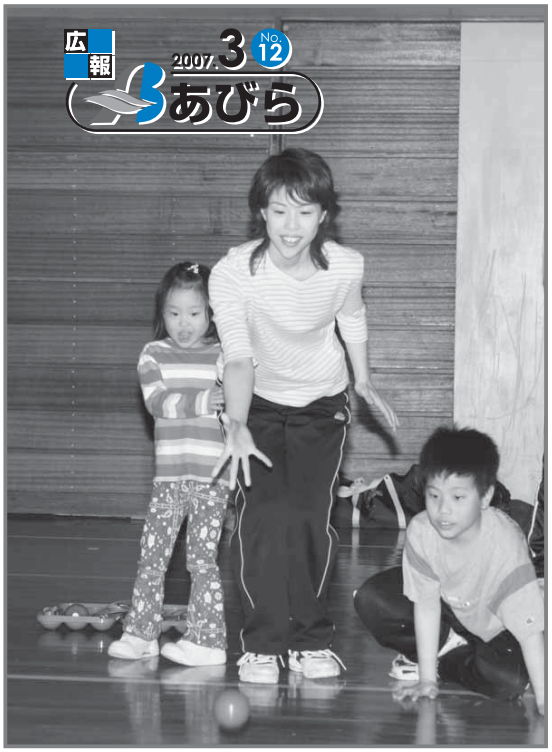

あびら回顧録

～平成19年3月号

主なできごと（紙面から）　早来中学校が全国中学スピードスケート大会３連覇達成

人口と世帯　平成19年2月末 9,304人 4,226世帯

広報あびら平成19年３月号は、「冬のニュースポーツ交流会」の様子が表紙を飾っていました。

屋外での活動が少ない冬期間でも、室内で楽しむことができるスポーツで交流を深めるために開催されたようです。

また、安平町が誕生して１年を迎えたこの年。早来消防は、創設100周年を迎えたと紙面で紹介していました。

早来消防 創設100年のあゆみ

郷土を守りつづけて100年

安平町が誕生して今月27日で１年を迎えます。火災や救急など私たちが安心して暮らしていくうえで消防の仕事は不可欠な存在です。明治40年に早来消防の組織ができて今年で１００周年を迎えました。住民の生命と財産を守り続けて一世紀。さまざまな写真や資料をもとに早来消防が歩んできた歴史を振り返ってみます。

消防組の誕生

明治22年植苗村美々の佐々木駒吉、ヤエ夫妻がフモンケの地に安平村の開拓の鍬がおろされて以来、室蘭線鉄道の開通と停車場の開業により入地者の数も次第に増加して、市街地を形成するとともに、火災発生による被害及び河川の氾濫による水害等により、住民の間に消防機関設置の必要が痛感されるようになりました。

【早来消防組】
明治40年１月18日
私設消防組創設　組員50名
【安平消防組】
昭和４年７月
私設消防組創設　組員25名
【遠浅消防組創設】
昭和５年10月
私設消防組創設　組員25名
【追分消防組】
明治30年４月１日
私設消防組創設　組員20名

大正５年ころの早来消防組

戦時下、警防団へ

昭和12年、日中戦争が勃発。国内の警備体制を強化するため消防組から警防団という組織になる。昭和16年から始まった太平洋戦争も、末期になると米軍の日本本土空襲が激しくなり、苦小牧・安平方面にも来襲し被災攻撃による誘爆がなされ、飛行機が飛びさるのを待って警防団が腕用ポンプや水バケツで消火に当たりました。

【安平村警防団】
昭和14年４月１日

大正11年早来消防組秋季演習

早来町消防団の誕生

太平洋戦争が終結し、我が国は連合軍の指揮下、日本の民主化が進められました。

防空警備の必要性がなくなったため消防も警察から分離され、警防団が廃止されてなくなり、新たに消防団が組織されました。

【安平村消防団】
昭和22年
８月１日
第一(早来)、第二(遠浅)、第三(安平)、第四(追分)の４分団で構成されました。定員は２００名以内とし任命式終了後、団長、副団長の選挙が行われ開票の結果、団長に小野寺慶蔵(追分)、副団長に小野寺新平(追分)と黒田五郎(早来)が選出されました。昭和27年８月に安平村区域のうち追分地区を分村し、追分村を設置したので組織の一部を変更し、現在の分団名に呼称が変更されました。

昭和29年10月に村名を安平村から早来村に改めたので、消防団も早来村消防団と改称。さらに昭和32年１月には町制が施行され、早来町消防団と改称されました。

当時「消防番屋」と呼ばれていた建物は、いずれも木造の腐朽甚だしく車庫も狭いうえ冬期間にはエンジンの凍結等により、敏速なる消防活動に支障があるので地域住民の間に消防番屋改築の要望が高まり、順次集会所併設の消防会館が建設されました。

過去の災害と防災の備え

昭和24年11月、厚真村の市街地で空を真っ赤に染める火災が発生、早来村消防団もいち早く出動し消火作業に当たりましたが、火勢は市街地を焼き尽くす全焼84棟におよぶ厚真大火となりました。

昭和26年３月、深夜に早来の市街地の大町で木工場火災が発生。事務所兼住宅を含め６棟が全焼、厚真村消防団と苫小牧市消防から応援出場を受けました。

昭和29年９月、台風15号来襲（洞爺丸台風）風速30メートルの強風等により村内各地で家屋・農業・林業被害が甚大な大惨事となりました。

昭和30年９月、千歳町市街地の飲食店より出火（千歳大火）の火災では、早来村消防団が応援要請により出動しております。

昭和31年10月、深夜に早来の市街地の中心地現在の大町で病院火災が発生。病棟及び住宅を含め５棟が全焼、焼死者２名、負傷者６名を出す大惨事となり自衛隊及び追分・厚真村消防団の応援出場を受けました。

火災を消すために必要な水（消防水利）を確保し、頻発する火災に備えるため昭和35年頃より鉄筋コンクリート製の防火水槽を設置、昭和45年頃より町の上水道が完成し、消火栓の設置が始められ、順次消防水利の増強が図られました。

近代化する消防

昭和46年７月には、早来町、追分町、厚真町、穂別町、鵡川町、穂別町の５町により胆振東部消防組合が設立され、消火作業すべてを消防団に依存していた時代から、常備職員が出動体制を備える時代へと変わりました。

昭和52年には救急車の寄贈を受け救急業務を開始、水利整備事情も考慮し大型水槽車の導入や消防車の増強及び更新整備を順次行い、消防会館の改築や防災資器材庫が建設されました。その後、救助資機材の整備及び救急の高度化に伴う高規格救急車の配備、救急救命士の養成等がなされました。

また、平成11年には男性の社会でありました早来消防団に女性団員５名が導入されました。

平成18年３月に旧早来町と旧追分町の合併により、それぞれの消防団が統合して新生「安平消防団」が誕生し、団本部には団長、３名の副団長及び10名の女性消防団員、早来・遠浅・安平に追分・追分２分団が加わった５分団制の定員１４０名の大所帯消防団となりました。

毎月の訓練のほか、各家庭や独居老人宅への査察や保育園及び特養施設等の防火訪問など、町民の火災予防に直結する活動も行っております。

消防職員は出張所を含め36人で、火災・救助・救助などあらゆる災害に対処するため、機材の整備を行い24時間体制で安平町を守っています。

昭和15年 安平村警防団第１分団消防班

昭和23年に購入の消防自動車と当時の消防番屋

早来消防会館

「あびら回顧録」は、役場で保管している広報紙を紹介する企画として、平成25年７月号から連載をしてきました。

古くは昭和30年代まで遡り、安平町が誕生するまでの旧追分町・早来町の様子と、今年度は合併10周年という節目に合わせ平成18年度の広報紙を紹介してきましたが、ここで一旦お休みさせていただきます。３年間、ご覧いただきありがとうございました。